



## 植物病原糸状菌の光環境応答～植物病害の防除に向けて～

生物資源科学部 教授 木原 淳一

動物や植物だけでなく、肉眼では見ることのできない微生物も、環境情報のひとつとして光を利用し、環境に適応して生きています。例えば、イネの葉に病気を引き起こすイネごま葉枯病菌は、孢子によって風媒伝搬しますが、この孢子形成は、紫外線によって促進され、青色光によって抑制されることが明らかとなりました。このことから、イネごま葉枯病菌は、青色光の有無によって昼と夜を区別し、紫外線量によって孢子形成量を調節していると考えられています。栽培植物の病害による被害は10%以上にも及ぶことから、植物の病気を防除するために、主に殺菌剤をはじめとした化学防除が行われています。しかしながら、薬剤耐性菌の出現や生態系への影響も懸念されており、新しい防除技術の開発が望まれています。私たちは、植物病原糸状菌が自然環境の中で生きていく上で重要と考えられる光環境応答の仕組みとその意義を明らかにし、これを植物病害防除に役立てるための研究を行なっています。

